



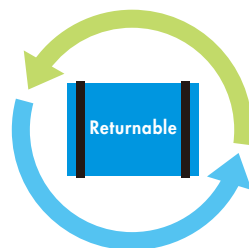
NEWS

2009 No.221

8月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

リサイクル部品とリターナブル梱包材、ダブルで環境貢献 物流にかかわるCO₂排出は リターナブルで4分の1に、 他のリサイクル部品流通グループの関心も高まる



NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合が取り組み始めたリターナブル梱包材の利用拡大が進んでいます。ゴミを出さないだけでなく、リサイクル部品の輸送時の二酸化炭素 (CO₂) 排出削減につながります。さらに利用頻度を高めて NGP 協同組合の「環境品質」向上に努めたいと考えています。

NGP 協同組合は、今年3月からリサイクル部品の梱包材を、繰り返し使うことが可能なPP (ポリプロピレン) 製のリターナブル材に変更する取り組みを始めました。ドア、フェンダーの輸送に使っています。

整備工場の皆様がどのような評価をされるのか気がかりなところもありましたが、「ごみが出なくていい」「取り扱いも簡単だ」などの評価を多くいただき、輸送事故もほとんど生じていません。整備工場の皆様には回収へのご協力をいただき、リターナブル梱包材利用の定着に向けて組合員も利用頻度を高めています。

使い捨てのダンボールからリターナブル梱包材に切り替えることは、ゴミの発生を減らすだけでなくリサイクル部品の輸送にかかわるCO₂排出を削減します。環境情報科学センターの「CO₂排出原単位表」や大手宅配業者の公表データなどを用いて試算しますと、ダンボールを利用したドア輸送のCO₂排出は8938g。これに対してリ

ターナブル梱包材は2309gで約74%減、4分の1に減ります。部品送り時の重量増、梱包材の回収といった排出増もありますが、梱包材を繰り返し使うことに伴うCO₂排出削減効果が大きいのです。

ドア用梱包資材は1回当たり4kgのダンボールを使いますが、製造に伴うCO₂排出は7792gです。これに対してポリプロピレン (PP) 製のリターナブル梱包材は1個当たり15.4kgと2倍近い排出量です。しかし、これを200回使えば輸送1回当たりの梱包材のCO₂排出は77gと100分の1に減ります。これが大きなCO₂削減効果を生むのです。

整備工場の皆様にご理解をいただき、利用回数を重ねれば重ねるほど、リサイクル部品輸送にかかわるCO₂排出を減らすことができ、リサイクル部品そのものが持つCO₂削減効果をさらに高めることが可能になります。

こうした取り組みにはリサイクル部品流通業者の全国組織、日本自動車リサイクル



「中身も箱もEco主義！」をキャッチフレーズに取り組み始めたリターナブル梱包

部品販売団体協議会 (JAPRA) なども関心を示しており、その仕組みを紹介しています。個別にどのような取り組みになっているのか教えてほしいといった問い合わせもあります。このような動きが業界内で広がれば、CO₂排出を数値化するグリーンポイントクラブの取り組みとともに自動車リサイクル部品の効用をさらに高めることになると、NGP 協同組合は考えています。

また、リターナブル梱包材での輸送対象はドアとフェンダーです。ドアでは容器の利用方法を工夫して大型のものを送ることを可能にするなど、NGP 協同組合内部の習熟度を高めるように努めています。さらにエンジンやバンパーなどもリターナブル梱包材にして、さらなるCO₂排出削減につなげることも検討しています。

CO₂排出削減、地球温暖化防止は社会の最大の関心事です。NGP 協同組合は車体修理時のCO₂排出削減につながるリサイクル部品の効用を最大限に高めて、整備工場の皆様のお役に立つための努力をこれからも続けてまいります。(2面に続く)

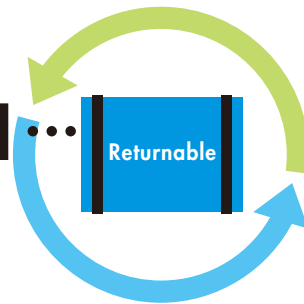
ダンボールとリターナブル容器とのリサイクル部品輸送に関わるCO₂排出比較

	容器分	+	商品輸送負荷分	+	空き容器回収分	=	トータルCO ₂
ダンボール	7,792g (1回使い捨て)	+	1,146g	+	0g	=	8,938g
リターナブル容器	77g (200回使用)	+	1,568g	+	664g	=	2,309g

約74%削減!

リターナブル梱包材利用の現場からの声

「ごみが出ないのが最大の魅力」
「各販売業者が共通に使ってもらいたい」…
さらに良いサービスにするために
感想を聞かせてください



ワンサイズの容器でも工夫すれば大きなサイズも梱包可能、安定もしている

NGPの協同組合は、リターナブル梱包材の利用拡大のために、さまざまな工夫をしています。いわばワンサイズの容器で梱包方法をアレンジして少し大きめのドアも梱包できるようにしたのも一例です。リターナブル梱包材の本格的な利用は始まったばかりで、組合員同士で知恵を出し合い、そのノウハウを共有化して利便性向上を進めます。

ひとつはお客様へのフォローです。お客様が注文したリサイクル部品がリターナブル梱包材を使って発送された時、フロントマンがお客様にそのことを伝えてフォローをしています。また、リターナブル容器に「ベルトは切らないでください」と注意書きもして

います。通常は容器付属の固定ベルトでドアを固定しますが、それをプラスチックバンドと間違えて切られてしまった事故があるからです。不慣れな時にありがちな事故といえます。

NGP協同組合のメタルリサイクル(埼玉県川島町)パーツセンターでは、「少し大きめのドアは一方の肩パットを外す」「大型のスライドドアでは付属の固定ベルトを使わずに中央を2本のプラスチックバンドで固定する」といった具合に工夫し、柔軟な使い方をしています。大型のドアは容器自体に重量があり、安定した梱包ができるということ です。

お客様の声



岩瀬自動車
钣金塗装
(福島県須賀川市)
深谷明宏専務

ゴミが出ないので助かります。容器の回収も早くて、こちらがあわててしまうほど回収がスムーズでした。リターナブルが定着してリサイクル部品業界で共通に使ってほしいと思っています。作業で部品を先に発注して車両入庫が後になるケースもあるので、こういうときの対策を考えていただきたいですね。

組合員の声



福島リパーツ
(福島県郡山市)
渡辺貞子専務

地球環境に良いというリサイクル部品だからこそ、輸送・梱包も環境に優しいほうがイメージアップにつながります。大型のダンボールが入手しづらくなっている中、導入コストはかかりますが、30回以上使えば初期費用は回収できます。100回、200回と使い、サービス向上でお客様に還元したいと思っています。

NGP 今月のCO2削減量

● NGP平成21年6月: **7,750t** (全12団体計: 15,130t)

● 1月からの累計: **45,598t** (全12団体計: 83,281t)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



オートアフターマーケット2009沖縄に九州支部が出展

ロータス九州ブロックのメンバーと熱い交流

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合九州支部と株式会社 NGP は 7 月 18、19 日の両日、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた「オートアフターマーケット 2009 沖縄」に出展しました。AA2009 沖縄は全日本ロータス同友会九州ブロックが主催し、九州各県持ち回りで開催しているブロック大会に合わせて初めて開かれたものです。



初の試みとなる AA2009 沖縄、ロータス九州ブロックも力が入る

九州地域の自動車アフターマーケットにかかわる事業者を一堂に会したコンベンションを目指した AA2009 沖縄には整備機器関連商社・メーカー、板金塗装関連機器メーカー、整備システムメーカーなど 50 社あまりが参加。NGP 協同組合九州支部もロータス九州支部ブロックの開催趣旨に賛同し、リサイクル部品業界の代表として出展したものです。セミナー・プロモーションプログラムも生まれ、2 日間の来場者数は 1500 人を超える盛況ぶりでした。

この中で NGP 協同組合九州支部は、ブースで組合説明の DVD を流すとともにパーツやパネルを展示して、CO₂ 排出削減につながるリサイクル部品の啓蒙活動を行いました。CO₂ 削減効果を説明するパンフレットとともに整備事業者向けの販促チラシ「お客様と華したいセット」等を配布して整備事業者様と一体になった環境貢献を PR しました。「来場者を見るとロータスメン



ブースではリサイクル部品で CO₂ 削減を訴えた

バーと大半が自動車関連業者で、非常に中身の濃い展示会でした」と NGP 九州支部の倉内和寛理事は話しています。

NGP 協同組合からは大橋岳彦理事長、杉之間大和総務広報委員長、事務局社員、また (株) NGP からは玉木基裕常務取締役の応援もあり、参加者全員で展示会を盛り上げることができました。

CO₂を削減した「グリーンメイド車検」が始まります

NGPメンバー会社が 仕組みを整備、ノウハウを公開

車検・整備、板金修理時に CO₂ 排出を削減し、「グリーン化」した自動車整備が始まります。青森県八戸市の整備事業者、東北自動車（中里明光社長）が「グリーンメイド車検・自動車整備」として仕組みを整えました。

「エコ整備」を進める整備事業者は多いですが、整備の作業工程が CO₂ 削減に結びつきません。「グリーンメイド車検」は、ここに再生可能エネルギーに由来する「グリーン電力」を活用し、作業工程そのものの CO₂ 削減を達成したのが大きな特徴です。経済産業省により 2009 年度の「環境配慮活動活性化ビジネス促進事業」のひとつに選ばれました。

グリーン電力は、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーで生まれた電力を取引できるようにした「グリーン電力証書」制度を活用しています。制度は再生可能

エネルギーの普及、利用拡大を目指したもので、同証書を購入することで、通常の電力使用であっても再生可能エネルギーを消費したものと公的にみなされるのです。

東北自動車では、車検・自動車整備を行う工場のリフト、コンプレッサーなどを作業工程ごとの電力消費量を図り、それに見合ったグリーン電力証書を購入し、制度に基づいて車検、自動車整備作業に伴う CO₂ 排出を削減する仕組みを整えました。平均すると車検では 1 台当たり 3kg の CO₂ 排出削減につながるそうです。

このほかにエコオイル、エコタイヤなどの環境配慮型の商品を取り扱い、ブレーキパッドなどの消耗品に関しても製造部品メーカーが生産過程の CO₂ 排出削減を達したものを使用します。消耗品などはアイテムごとの CO₂ 削減効果は明確にならな



準備万端、グリーンメイド車検に合わせて工場もアースカラーでリフレッシュ!

いのですが、修理に使うリサイクル部品は CO₂ 削減効果が NGP 協同組合も参加しているグリーンポイントクラブによりデータベース化されています。作業工程の消費電力と合わせると、どれだけ CO₂ 排出削減にしたかが明確になるそうです。

こうした仕組みを整えたグリーンメイド車検は、車検や整備を受けるユーザーに自動車メンテナンスを通じた CO₂ 削減を訴えるようにしています。

東北自動車は NGP 協同組合に参加する「エコブリッジ」と経営母体が同じで、仕組み作りのノウハウを公開することにしています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東北	有限会社安澤商店	会社代表	代表取締役社長 安澤康博	21年7月1日
東海	有限会社富士クラッチ工業所	移転	〒510-0874 三重県四日市市河原田町 1730-2 TEL.059-325-6623 FAX.059-325-6627	21年7月21日

第4回ハイブリッドカーセミナー開催

NGP 協同組合にエコカー対応の基盤が広がる

7月6、7日に第4回ハイブリッドカーセミナーが静岡県裾野市のあいおい東富士研修センターで開催されました。NGP 協同組合はハイブリッド車を安全に取り扱うことを目的に、リサイクル業界のトップを切っ



高電圧の電池を搭載するハイブリッド車、基礎知識は必要不可欠

す。今回は全国から11名が参加。今後、使用済み自動車として確実に増加することになるハイブリッド車の知識浸透を図ることができました。

実物を前にした講義の評価は高く、「いちばん驚いたことはプリウスのトランスミッションには変速がないということで、今まではCVTだと思っていたので、構造や分解した中身を見ることができ、とても勉強になりました」（カースチール・瀬川雄一さん）、「学科を受けた時は自分には難しすぎと思いました。しかし講師の話、実車を使っての説明がとてもわかりやすく、もっとハイブリッド車のことを知りたいという気持ちになり、真剣に聞き入ってしまいました」（岡崎車輛部品・山本直樹さん）など、安全対策はもちろんのことハイブリッド車の構造についての知識を確実に吸収することができたようです。



実物の教材を前にして受講者も真剣、目が輝いている

また、ワープの今井康裕さんは、「ハイブリッド車についてよく分からないと言われていたお客様がいらっしゃいましたので、整備分解方法を理解することで情報交換を積極的に行い、知識を顧客の確保に生かしたいと思います」と意欲的です。エコカーの知識吸収を積極的に行うことは「先んずれば人を制す」につながります。

第3回生産 STEP UP 研修会開催

「目からのウロコ」の講義で実力を磨く

第3回生産 STEP UP 研修会が7月7～9日の3日間、静岡県裾野市のあいおい東富士研修センターで開催されました。参加者は7名で、ハイブリッドカーセミナーと連続して研修を受講した人も3名いました。NGP に入って初めて部品生産に取り組んだとい



分解したエンジンの組み付けは初心者では大仕事

う参加者も多く、エンジンの組上げには苦労していたようです。

福山セコの瀬尾明さんはハイブリッドカーセミナーとの連続で受講した一人。「普段、毎日触っている車なのに、知らないことがたくさんあり、車を扱う会社の社員として恥ずかしく思いました」との感想を寄せています。もちろん研修を受けて「たくさんのことを学び、自分に自信がついた」とも言っていました。

西日本オートリサイクルの久古太さんも連続して受講。自動車の構造にかかわる講義では「素材の組み合わせ方、溝の穴の入れ方を少し変えるだけで、安全性や強度、事故を起こした時の車の壊れ方が大きく変化することを学びました」。これがヒントになり、

「車と同じで会社の仕事もちょっとした変化で作業の効率が大きく変わる」と思ったそうです。

そして「自分が気づくことで仕事を大きく変え、会社に貢献できるようにがんばります」と前向きです。

営業職で生産 STEP UP 研修に参加したワープの藤岡史浩さんは、「営業職といえどもお客様との会話や提案、相談等で常にパーツに関する話は出てきます。（講義で高めた知識を）明日からの営業に必ず活かすと肝に銘じて、がんばっていきます」と誓っていました。



どんな時でもあいさつは基本、礼儀正しさは原点のひとつ

第5回「ベース車を当てようクイズ」正解&当選者発表!!



写真のスポーティー車のベースカーは？
正解は **初代プリウス** でした。

協力：
日本自動車大学校
(NATS) の皆さん



プレゼント
当選者発表!!

たくさんのご応募ありがとうございました!

QUOカード5千円分
(3名様)

★宮城県石巻市 阿部正一さん
★岐阜県羽島郡 青木猛郎さん
★山口県宇部市 手島麻喜さん

※当選された方には、(株)NGPよりプレゼントをお送りいたします。商品の発送にはお時間がかかる場合もございます。あらかじめご了承ください。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201